

アジア教育学会第14回大会プログラム

2019年11月2日(土)

名古屋市立大学

皆様

11月2日土曜日、アジア教育学会第14回大会を開催させていただき運びとなりました。名古屋市立大学は来年度開学70周年を迎え、現在70周年記念事業準備が行われております。さて、本大会の特別講演講師は、北京師範大学の檀伝宝教授で、中国道德教育の第一人者です。講演は、中国の道德教育について中国語でお話しいたします。(通訳がつきます)。皆様には、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 大会日程 2019年11月2日(土)

8:30~受付(1号館-203教室前)	14:00~16:00	研究発表第二分科会(1号館204教室)
9:00~12:00 研究発表第一分科会(1号館203教室)	14:00~16:00	研究発表第三分科会(1号館203教室)
12:00~13:30 昼食(理事会1号館-202教室)	16:00~17:30	特別講演(1号館203教室)
13:30~14:00 総会(1号館203教室)	18:00~19:30	懇親会(かごの屋 桜山滝子店)

2. 参加申込・参加費用

参加申込 同封の参加申込書に必要事項をご記入の上、10月28日(月)までに、下記連絡先にメール、FAX、郵送のいずれかの方法で、ご提出ください。

連絡先 〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1 名古屋市立大学大学院人間文化研究科
山田美香研究室内 アジア教育学会第14回大会準備委員会事務局
Tel : 052-872-5156 Fax : 052-872-5170
Email : asakura@hum.nagoya-cu.ac.jp

大会参加費 1,000円(臨時会員も同額)

懇親会費 4,000円(学生3,500円)

懇親会会場は、かごの屋桜山滝子店です。学会会場から徒歩5~7分ほどのところにあります。

3. 会場案内 (別紙地図参照)

〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1 名古屋市立大学滝子キャンパス1号館2階

(1) 宿泊案内

宿泊については各自でご予約下さい。宿泊はJR・名鉄(名古屋鉄道)金山駅付近ですと、金山駅バスターミナルから市バスが出ており便利です。金山駅から4停留所目(滝子バス停)から徒歩5分ほどで名古屋市立大学に到着します。また名古屋駅周辺のホテルに宿泊する場合、地下鉄桜通線で名古屋駅から桜山駅まで15分程度、大学へは桜山駅から徒歩12分の距離となります。

(2) 交通機関

●地下鉄でのアクセス(JR名古屋駅から)

桜通線「桜山」駅下車5番出口から徒歩12分

●名古屋市バスでのアクセス(JR・名古屋鉄道金山駅から)

金山駅 市バスターミナル金山7番のりばより金山11・12・16「滝子」下車

金山駅 市バスターミナル金山8番のりばより金山14(桜山経由)「滝子」下車

【研究発表】

第1分科会（203教室）

司会：山下達也（明治大学）

- 9：00～9：30 山田美香（名古屋市立大学）
戦後台湾における非行少年の存在
- 9：30～10：00 青春（名古屋市立大学大学院）
内モンゴル自治区の幼児教育形態「草原流動幼児園」について
—KHcoderによるインタビュー調査の分析
- 10：00～10：30 サラン トナラ（早稲田大学大学院）
メディアによる情報の教育的役割—婦人誌にみるモンゴル人女性—
- 10：30～11：00 道日娜（東京外国語大学大学院）
モンゴル人大学生と就職—内モンゴルフフホトでの調査を中心に—
- 11：00～11：30 金龍哲（神奈川県立保健福祉大学）
「学校」で養成された宗教的職能者の現状
—「ハングイ文化学校」卒業生の調査を中心に—
- 11：30～12：00 全体討論
- 12：00～13：30 昼食（理事会1号館202教室）
- 13：30～14：00 総会（203教室）
-

第2分科会（204教室）

司会：山田美香（名古屋市立大学）

- 14：00～14：30 万静嫻（早稲田大学大学院）
中華人民共和国建国直後江蘇省における識字教育に関する一考察
—地域コミュニティの視角から—
- 14：30～15：00 劉琦（早稲田大学大学院）
中国教育NGOの参与型開発の在り方に関する一考察
「中国滋根郷村教育と発展促進会」の教育開発事例を手がかりに—
- 15：00～15：30 王佳（九州大学）
中国の全日制専門職大学院における学外実習に関する研究
- 15：30～16：00 全体討論

第3分科会（203教室）

司会：新保敦子（早稲田大学）

- 14：00～14：30 川瀬瑠美（広島大学大学院）
台湾における義務教育制度の多様化
- 14：30～15：00 中矢礼美（広島大学）・劉国彬（福山大学）
インドネシアにおける華人系大学の特徴
- 15：00～15：30 Ayu Azhariyah（名古屋大学大学院）
インドネシアの「指導される民主主義」期（1959～1965）における高等教育の位置付けと
外国語学科設立－日本語学科に着目して－
- 15：30～16：00 全体討論

特別講演（203教室）

- 16：00～17：30 檀伝宝（北京师范大学教育学部教授兼学术委员会主任，
北京师范大学公民与道德教育研究中心主任，（中国）全国德育学术委员会理事长）
改革开放以来中国（大陆地区）中小学德育课程发展及其特点（中国語 通訳つき）

18:00～19:30 懇親会（かごの屋 桜山滝子店） 052-693-8826

【発表要旨】

1. 戦後台湾における非行少年の存在 山田美香（名古屋市立大学）
戦後アジアにおいて非行少年はどのような存在とみられていたのか。本発表では、台湾における先行研究・雑誌・新聞などを用いて、資料において非行少年がどのように見られていたのかを明らかにする。戦後社会において非行少年の存在は「犯罪者」との視点が強かったが、現在では福祉的な支援をすべき対象者とみる者が増えていく。資料を中心に議論をしていきたい。

2. 内モンゴル自治区の幼児教育形態「草原流動幼児園」について－KHcoderによるインタビュー調査の分析 青春（名古屋市立大学大学院）
この発表では、一人ひとりの話の内容の分析と比較分析を主な構成とする。インタビュー調査に応じてくださった草原流動幼児園の教職員・保護者四人の内、以前別の学会で発表していない三人についての調査分析である。一人ひとりの話の内容を分析する事によって、草原流動幼児園の教育内容を細かく確認できる。また、教師の立場、管理職の立場、保護者の立場から比較することで、立場が異なる視点からの草原流動幼児園についての観点が明確になる。

3. メディアによる情報の教育的役割—婦人誌にみるモンゴル人女性—

サラントナラ（早稲田大学大学院）

メディアによる情報は単なるモノコトを伝えるのではなく、意図的に構成された情報伝達であることも否定できない。メディアはあらゆる局面で浸透され、普及されている現代の社会において、伝えられてくる情報が人々の見方や考え方を導く役割を果たし、そして文化の形成にも影響を与える。

本発表において、『内モンゴルの婦人たち』という婦人誌が紙媒体というメディアとして、読者のモンゴル人の女性たちに何を伝えていたかに焦点を与え、社会変容のプロセスと女性に対する認知と女性自身の変化を考察する。

4. モンゴル人大学生と就職—内モンゴルフフホトでの調査を中心に—

道日娜（東京外国語大学大学院）

本稿では、中国における少数民族大学生の就職の実態を調査するために、内モンゴル自治区のモンゴル語で教育を受けた大学生へ半構造化インタビューを実施しました。大学による公式の就職データを概観した上で、2019年8月にフフホトで行なったモンゴル人大学生及び関係者への半構造化インタビュー調査の結果を分析し、モンゴル語で教育を受けた大学生の就職実態を明らかにし、その就職意識及び就職難の原因を探ってみたい。また、就職活動において、大学で学んだ知識或いは、モンゴル語、漢語、英語がどのように生かされたかもあわせて検討する。

5. 「学校」で養成された宗教的職能者の現状

—「ハングイ文化学校」卒業生の調査を中心に—

金龍哲（神奈川県立保健福祉大学）

ブミ族の「ハングイ文化学校」と「ハングイ文化教室」は、少数民族が従来の伝承慣行とも、正規の学校教育とも異なる、自らのニーズに基づいて自民族の信仰体系を担う聖職者の養成を目指した試みである。少数民族が自らの文化を伝承するための装置構築に一つのモデルを提供する事例として位置づけることもできる。本発表では、「ハングイ文化学校」卒業生に関する調査を通してその効果の検証を試みる。

6. 中華人民共和国建国直後江蘇省における識字教育に関する一考察

—地域コミュニティの視角から—

万静嫻（早稲田大学大学院）

1949年、中国は戦争による長期的な社会的混乱が一段落し、崩壊した社会の再建を図った。教育普及の一環とされる識字教育はその中でも重要な課題であり、教室や教師などの不足問題に直面しながらも、学校に頼らずに地域社会で進行していた。本研究は建国直後の江蘇省における識字教育に着目し、史料の検討とインタビュー調査の結果により、地域コミュニティの視角から、当時の識字教育をめぐる諸状況について考察する。

7. 中国 教育 NGO の 参与型 開発 の 在り方 に 関する 一 考察 「中国 滋根 郷村 教育 と 発展 促進 会」 の 教育 開発 事例 を 手がかり に - 劉琦（早稲田大学大学院）

1949 年、中国は戦争による長期的な社会的混乱が一段落し、崩壊した社会の再建を図った。教育普及の一環とされる識字教育はその中でも重要な課題であり、教室や教師などの不足問題に直面しながらも、学校に頼らずに地域社会で進行していた。本研究は建国直後の江蘇省における識字教育に着目し、史料の検討とインタビュー調査の結果により、地域コミュニティの視点から、当時の識字教育をめぐる諸状況について考察する。

8. 中国の全日 制 専門 職 大学院 における 学外 実習 に 関する 研究 王佳（九州大学大学院）

本研究では、中国の全日 制 専門 職 大学院 における学外の教育実習・インターンシップに焦点をあてて、全日 制 専門 職 大学院 2 年生へのインタビュー調査による学外実習の実態を把握し、学校・企業等との連携による教育実習・インターンシップはどのようなモデルで、推進をみせているかを明らかにする。

9. 台湾 における 義務 教育 制度 の 多様化 川瀬瑠美（広島大学大学院）

本発表では、台湾で実施されている「実験教育（實驗教育）」に関する政策展開の検討を通して、台湾市民による教育の自由化の要求と、それに対する政府による管理として、台湾の義務教育制度が多様化している現状を明らかにする。

実験教育は 1990 年代から始まった教育形態であり、市民による公教育に対する民主化と自由化を求める動きに対応する形で発展してきた。しかし徐々に教育政策による位置付けがなされるようになり、1999 年の通称「実験三法」の成立によって、完全に法規に位置付けられる存在となった。本発表では、実験教育の歴史的経緯を整理しながら、台湾の義務教育における民主化と自由化が、政府の管理に回収されている様相を明らかにする。

10. インドネシア における 華人系 大学 の 特徴 中矢礼美（広島大学）・劉国彬（福山大学）

本発表の目的は、インドネシアにおける華人系大学の特徴について、歴史と社会的機能から明らかにすることである。研究対象は、ジャカルタ 2 校、東ジャワ州 1 校の華人系大学である。研究方法は、華人系大学に関する歴史、行政、調査大学資料の分析および大学教員へのインタビューであり、大学の設立背景、歴史、現在のビジョン、カリキュラム、大学経営・教育活動に関する中国との関係、在校生の特徴から分析を行う。

11. #インドネシアの「指導される民主主義」期(1959～1965)における高等教育の位置付けと

外国語学科設立 - 日本語学科に着目して - Ayu Azhariyah(名古屋大学大学院)

本研究では日本語学科の事例に着目して、1959 年から 1965 年のインドネシアにおける高等教育の位置付けと外国語学科設立の展開を考察する。スカルノ体制後期、「指導される民主主義」が掲げられ大統領権限が著しく強化された。同時にナサコム（ナショナルリズム、宗教、共産主義）理念の下で高等教育は革命の道具と位置付けられ、政治的文脈もあって東洋諸語は特に重視された。本研究は同時期の体制と外国語学科設立の関係を明らかにする。

12. 改革开放以来中国（大陆地区）中小学德育课程发展及其特点

檀传宝（北京师范大学）

像其他东亚国家一样，中国一直重视对中小学生进行德育，且中小学一直设有专设的德育课程。通过对改革开放以来中国中小学专设德育课程发展历史的回顾和最新状况的分析不难看出，改革开放以来中国中小学专设德育课程发展的几个特点：第一，执政党的意识形态一直决定性影响着中国德育课程的内容、形式与实施；第二，有中国特色的公民教育（政治教育）与道德教育一直是中国德育的两条主线；第三，教育学、心理学的专业参与对课程建设发挥了十分积极的作用。最近中国德育课程发展在强调法治教育、国情教育等方面有较大进展，但也有几个令人焦虑的倾向，如强制灌输的教育观念得到了政策上的强化、改革开放以来一些议题的保守性处理、课程政策及实施的专业性弱化等等。